

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2020 年 10 月 13 日 (火) 1 限 実施
後期① 考査
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 インド哲学について、次の問い(A, B)に答えよ。(配点 28)

A 次の高校生と先生の会話文を読み、次の問い(問1~問4)に答えよ。

高校生：仏教というとインドに始まるイメージですが、現代のインドでは仏教徒は少ないそうですね。

先生：2011年の調査によると、[1] 教徒が 79.8%、[2] 教徒は 14.2%、キリスト教徒 2.3%、シク教徒 1.7%、仏教徒 0.7%、(a) ジャイナ教徒 0.4%だそうだよ。

高校生：どうしてインドで仏教を信じる人が減ってしまったのでしょうか。

先生：パーリ語の経典の中には「生まれによって賤しい人となるのではない。生まれによってバラモンになるのではない。(b) 行為によって卑しい人ともなり、行為によってバラモンともなる」という言葉があるね。

高校生：それが仏教徒の減少と関係があるのですか。

先生：この考え方は(c) アーリヤ人の文化に始まり、現代もインドに残る [3] を否定することになると思わないかい。

高校生：なるほど。カースト制度は [3] が基本になっていると聞きました。授業ではブッダは [4] 階級出身だとも聞きました。

先生：原始仏教教団の中では、出身身分ではなく出家の順番で上下関係があったそうだ。

高校生：それは芸歴が序列になるお笑い芸人みたいですね。アーナンダ兄さんとか、ウパーリ師匠とか呼ばれていたのかな。

先生：ウパーリはシュードラ出身の床屋だったけど出家の時期が早かったから、元王子のアーナンダはウパーリを敬っていたそうだ。歴史的には [2] 教徒がインドを支配していた時代に仏教を弾圧したから仏教徒が減少したのだが、現在ではカースト制によって差別されてきたダリットたちが仏教に改宗している。

高校生：ダリットってガンディーがハリジャン(神の子)と呼んだパリア(不可触民)のことですね。資料集テオリアの56ページには [5] と書かれていましたよ。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [5] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[1] [① バラモン ② ゴロアスター
 [③ ヒンドゥー ④ イスラム

[2] [① バラモン ② ゴロアスター
 [③ ヒンドゥー ④ イスラム

[3] [① ヴァルナ ② ヴェーダ
 [③ ヨーガ ④ アースラ

- [4] ⎧ ① シュードラ ② バラモン
 ⎩ ③ クシャトリヤ ④ バイシャ

- [5] ⎧ ① ジャータカ ② ナマステー
 ⎩ ③ ジャーティ ④ アヴァルナ

問2 下線部(a)に関して、ジャイナ教の教説として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[6]

- ① その教義は、光と闇、善と悪の二つの原理の対立に基づいている。大いなる苦しみのために「火宅」(この世界)を逃れるためには真(光)と偽(闇)を見分け、救われるための縁をとらえなければならない。
- ② 迷いに打ち勝った勝利者の教えを意味する。悟りに達するためには、苦行を重んじ戒律を守らねばならぬとされる。不殺生・不妄語・不盗・不淫・無所有の五戒が根本戒律であるが、とりわけ不殺生戒を厳守する。
- ③ 善なる神アフラ・マズダーは生命・光を選び、邪悪な霊アングラ・マインユ(アフリマン)は死・闇をとった。宇宙はこの両者の戦う場として創造されたという。創造物と神々は、悪の軍勢と戦う。
- ④ 生き物を殺し、苦しめ、悲しませ、おののかせ、人から物を盗み、家宅侵入、追いはぎ、姦通、虚言などをして悪業に対する報いはないと説き、また逆に祭祀を行い布施をし、真実を語るなどの善業をなしても善の報いも存在しないと述べた。

問3 下線部(b)に関して、「行為」を意味する語についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① 結果をもたらす力を持つとされるもの。所作だけでなく、言葉や思いも含む。
- ② 姿勢を正して坐して心を一つに集中する宗教的修行法の一つ。
- ③ 原義は糸で、花を貫いて花輪とするように、教法を貫く綱要の意となった。
- ④ 存在にはその本質となるべきものがないということ。

問4 下線部(c)に関して、アーリヤ人についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① メソポタミア南部に世界最古の古代文明を築いた民族。メソポタミアの原住民ではなく、おそらく前 3500 年前後に来住したと考えられる。居住地、来住経路、来住時期、言語系統などは不明。
- ② 黒い肌色と黒い縮毛が特徴。その言語はインド＝ヨーロッパ語族にも、南アジア語族にも属さない。彼らは、西方からインドに移住し、先住民を征服してインダス文明を築いたと考えられている。
- ③ 中央アジアで遊牧生活を営んでいたが、前 2000 年頃からその一部が南下してインダス川上流地方に侵入、定住農耕生活に入った。その一部は前 1000 年頃東のガンジス川流域に侵入、先住民を征服した。
- ④ バイカル湖南岸からアルタイ山脈北方に分布し、中央アジアへ移動して遊牧から定着生活に移るとともに、さらに西へ進みイスラム化し、やがてセルジューク朝を樹立してバグダードを首都とし、イスラム世界を実質的に支配するにいたった。

B 次の高校生と先生の会話文を読み、次の問い（問1～問4）に答えよ。

図1



図2



高校生：仏教以外のインド思想で、日本に影響を与えたものはありますか。

先生：仏教以前のインド思想でも、仏教とともに日本に入ってきたものは多いね。図1の神はインドラといって、(d)『ヴェーダ』の主神的な存在だが、日本では[9]として、仏教の守護神として信仰を集めた。

高校生：授業の動画で見た映画、葛飾公園前「ドラちゃん」の舞台に出てくる神様ですね。

先生：いや、両さんもドラえもんも見せてないから。葛飾柴又の寅さんでしょう。それから、図2の弁財天も元々は『ヴェーダ』の水の女神[10]だからね。

高校生：弁財天の前世が[10]だったのでしょか。

先生：その考え方からすると、人間と神が同レベルの存在になってしまうね。文献1を読んで、輪廻転生について勉強してみたまえ。

文献1 『世界の歴史3 古代インドの文明と社会』（中央公論社）

業・輪廻思想に関する体系的な説明が最初になされた文献は『[11]』である。そこで展開される五火二道説によると、靈魂は次の五段階を経て輪廻するという。五火の「火」とは祭火の意味であり、靈魂の輪廻する段階を表している。

(1) 死者の靈魂は火葬されたあと月の世界に行くが、(2) やがて雨とともに地上に下り、(3) 地中に入って食物となり、(4) 男に食べられその体内に入り、(5) 精子として母胎に入って再生する。この五段階は単なる輪廻であるが、これにさらに因果応報の理論が加わる。つまり、正しい信仰による完全な知識をえた者は、火葬ののち神の道に入り、[12]の世界に安住して(e) 地上に戻ることはない。これに対し一般の人間は、火葬ののち多くの祖先たちと同じ道に入り、上の五段階を経て地上に再生する。

問5 文章中の空欄 [9] ~ [12] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

- [9] [① 韋駄天 ② 梵天
 [③ 吉祥天 ④ 帝釈天

- [10] [① サラスヴァティ ② ヴァルナ
 [③ アースラ ④ ヴィシュヌ

- [11] [① ウパニシャッド ② リグ・ヴェーダ
 [③ ラーマーヤナ ④ アヴェスター

- [12] [① バラモン ② ブラフマン
 [③ アートマン ④ アーリマン

問6 下線部 (d) に関して、ヴェーダについての説明文中の空欄【 X 】【 Y 】に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[13]

ヴェーダの祭祀の中心である火に供物を捧げる儀式はホーマと呼ばれるが、これも仏教とともに我が国に伝来し、真言密教の【 X 】となった。先住民の信仰と関係するものとしては蛇（ナーガ）信仰があり、わが国の竜王・龍神信仰はここに起源の一つを持っている。香川県の琴平町に祀られている【 Y 】は、ガンジス川のリニ（クンピーラ）に由来する竜神である。

- ① 【 X 】加持 【 Y 】金毘羅
② 【 X 】加持 【 Y 】大物主
③ 【 X 】護摩 【 Y 】金毘羅
④ 【 X 】護摩 【 Y 】大物主

問7 下線部 (e) に関して、輪廻から抜け出すことを表す語として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[14]

- ① 解脱 ② 入滅 ③ 引導 ④ 回向

第2問 次の高校生の発表を読み、下の問い（問1～問3）に答えよ。（配点 24）

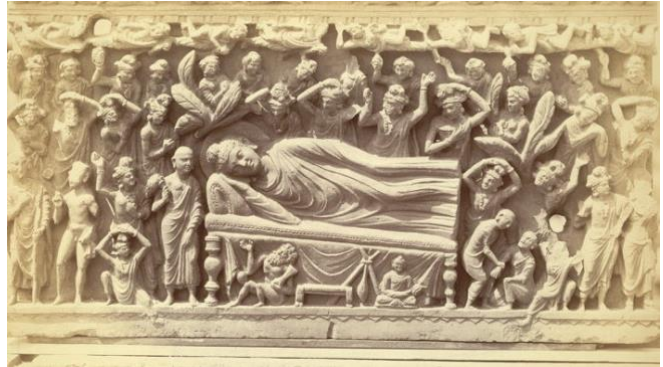
文献1

白雪を頂き、流麗な峰々が連なるヒマラヤ南の麓に、[15] はあった。人も気候も、すぐれて豊かに栄えた都だった。シャーキャ(釈迦)一族の長、ゴータマ家のシュッドーダナ(浄飯王)は、高い徳をもって正しく治めることでも広く知られていた。その妃マーヤー(摩耶夫人)は、ユーリヤ国の姫で、容姿の美しさは天女をしのぎ、心はさらに優しく、多くの人々から篤く慕われていた。ある日、マーヤーは夢を見た。あまりにも不思議な夢だったので夫に語って聞かせた。「遙か遠い天から、6本の金色の牙を持つ純白の気高い [16] が降りてきたのです。驚いたことに、私の右脇からおなかの中に入るではありませんか。すると、無限を思わせる大きな光の中に、すっぽりと浮かんでいるような、素晴らしい気持ちになったのです」

図1



図2



【高校生の発表】

文献1はブッダ誕生の時のエピソードです。この話の後、マーヤーはルンビニー園で男の子を出産しました。その時の出来事を記念して、現在でも4月8日の降誕会は [17] とも言われて、灌仏盤の仏像に頭から甘茶をかける行事が行われています。

図1は [18] で行われたという、5人の比丘に対する(a)初転法輪という出来事ですが、ここに描かれている車輪が [19] のシンボルです。また、図2は釈尊の入滅の様子を描いたレリーフで、 [20] での出来事だと考えられています。その時、ブッダは [21] の方角に頭を向けて亡くなったとも言われます。釈尊は入滅の場所として沙羅双樹の咲いている場所を選びましたが、そのとき沙羅双樹は真っ白に変化し、八本あったうちの四本は瞬く間に枯れ、残る四本の沙羅は栄えるように咲いたと言われています。

問1 上の文中の空欄 [15] ～ [21] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [15]

①	ブッダガヤ	②	カピラヴァストゥ
③	クシナガラ	④	サールナート

- [16]

①	牛	②	象
③	沙門	④	菩薩

- [17] ⎧ ① 葵まつり ② お盆
 ⎨ ③ 花まつり ④ お彼岸
- [18] ⎧ ① ブッダガヤ ② カピラヴァストゥ
 ⎨ ③ クシナガラ ④ サールナート
- [19] ⎧ ① ダルマ ② ディヤーナ
 ⎨ ③ サティア ④ ボーディサッタ
- [20] ⎧ ① ブッダガヤ ② カピラヴァストゥ
 ⎨ ③ クシナガラ ④ サールナート
- [21] ⎧ ① 東 ② 西
 ⎨ ③ 南 ④ 北

問2 下線部(a)に関して、初転法輪の際に釈尊が説いたとされる四諦についての説明文の空欄 [22] ～ [24] に入る最も適当な語を答えよ。

初転法輪の際に釈尊が説いたとされる教えが、四諦である。教理上の説明を加えると、(1)苦諦：人生には生老病死の四苦のほか、愛しい人に別れ、怨み憎しみある者に出会い、求めるものは得られず、[22] はいずれも苦しみの原因にすぎない、という合計 8 種の苦悩がある。(2)集諦：この苦を起すもの、つまり苦の原因としては、【 Z 】がある。無知とは真実を知らないことすなわち [23] で、ときにはこれが悪の根源とみなされる。欲望や執着はすべてこの無知の結果おこるとみるのである。(3)滅諦：苦の滅、[24] 寂靜が理想であること。これは無知がなくなったとき、つまり真実を知ったとき、悟ったときに実現する。(4)道諦：この、苦の滅を達成するために実践すべき正しい道で、8 項ある。すなわち、(ア)正しい物の見方、(イ)正しい心のもち方、(ウ)正しい言葉遣い、(エ)正しい行動——不殺生、不偷盜などの戒を守る、(オ)正しい生活、(カ)正しい努力、(キ)正しく教えを憶念する、(ク)正しい [25] の修習。

- [22] ① 一切 ② 衆生 ③ 空識 ④ 五蘊
[23] ① 無記 ② 無明 ③ 無我 ④ 無常
[24] ① 和敬 ② 入滅 ③ 涅槃 ④ 三昧
[25] ① 苦行 ② 経蔵 ③ 禅定 ④ 戒律

問3 上の文中の【 Z 】に入る語句を考え、その語句を入れた際に正しい解説となる文として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[26]

- ① 貪・瞋・痴の三つは三毒と称して、【 Z 】の最も根元的なものである。
② 自分の利益のみを知る人間は汚らしい。【 Z 】のようにただ独り歩め。
③ 人間の不善の心理状態を詳細に分析して、きわめて多種多様の【 Z 】が説かれ、「百八の【 Z 』」「八万四千の【 Z 』」と言われた。
④ 心をわずらわし、身をなやます心の働き。心身を悩ます一切の精神作用を総称して【 Z 】という。

第3問 次の原始仏教に関するセンター試験過去問題（問1～問6）に答えよ。（配点 12）

問1 仏教の修行法である八正道についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[27]（2018年本試）

- ① 快樂と苦行を避け、中道に生きるための修行法が八正道であり、その一つである正業とは、悪しき行為を避け、正しく行為することを指す。
- ② 快樂と苦行を避け、中道に生きるための修行法が八正道であり、その一つである正業とは、人の行為と輪廻の関係を正しく認識することを指す。
- ③ 六波羅蜜の教えに由来する修行法が八正道であり、その一つである正業とは、悪しき行為を避け、正しく行為することを指す。
- ④ 六波羅蜜の教えに由来する修行法が八正道であり、その一つである正業とは、人の行為と輪廻の関係を正しく認識することを指す。

問2 縁起の法を理解すれば執着を離れることができる理由の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[28]（2017年追試）

- ① ものはいずれも、永遠の実体をもたず、他のものを原因や条件にして生じたり消滅したりするため、執着する心の根底にある「ものは確固たる存在である」という思いは、誤りであると分かるから。
- ② 外界の存在として知覚されるものは、実際には存在しておらず、知覚する者の心が作り出したものにすぎないので、そのような心をもつ限り、知覚する者は、はじめからすべてのものを手に入れていると分かるから。
- ③ ものはいずれも、永遠の実体をもたず、他のものを原因や条件にして生じたり消滅したりするが、それと同じように、執着する心も永遠ではなく、時間の経過とともに静まっていくのが定めであると分かるから。
- ④ 外界の存在として知覚されるものは、実際には存在しておらず、知覚する者の心が作り出したものにすぎないのであり、「ものと心は同一である」と理解することで、真の自我にたどりつけると分かるから。

問3 ブッダの教えを表す四つの命題である「四法印」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[29]（2014年追試）

- ① 「諸法無我」とは、それ自体で存在するような不変の実体は何もない、という教えを指す。また「一切皆苦」とは、一見楽しそうなことも含め、この世の現実のすべては苦しみにほかならない、という教えを指す。
- ② 「諸行無常」とは、あらゆる行為は常に変転し続けるので、苦行にも意味はない、という教えを指す。また「涅槃寂靜」とは、我執を断った安らぎの境地へと至ることが理想である、という教えを指す。
- ③ 「諸法無我」とは、ブッダのもろもろの説法は、すべて「我などない」という一つの真理を表している、という教えを指す。また「一切皆苦」とは、心のなかの煩惱が一切の苦しみの原因である、という教えを指す。
- ④ 「諸行無常」とは、すべてのものは常に変転し続け、とどまることはない、という教えを指す。また「涅槃寂靜」とは、聖典に定められた様々な祭祀の執行を通して解脱に至るべき、という教えを指す。

問4 ブッダが説いた教えとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[30]

(2011年追試)

- ① 人間の肉体や精神を含めて、この世のものはすべて変化してとどまることがないという真理を悟り、自己やその所有物に対する欲望を捨て、平静な安らぎの境地に達するべきである。
- ② 人間の肉体を含めて、この世のものはすべて変化してとどまることがないという真理を悟り、この世のものに対する肉体的な欲望に囚(とら)われず、真の自己である不滅の霊魂のことを気遣うべきである。
- ③ 宇宙の根源にある永遠の原理と、真の自己である不変の原理とが究極的には一体であるという真理を悟り、個別的な自己やその所有物に対する欲望を捨て、輪廻の苦悩から解脱すべきである。
- ④ 輪廻は行為の結果に対する執着と欲望によるという真理を悟り、生まれついた身分に与えられた仕事にひたすら邁進することによって、輪廻の苦悩からの解脱を目指すべきである。

問5 ブッダの教えをまとめた四諦の各々についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[31] (2010年本試)

- ① 苦諦：自分の欲するままにならない苦は、努力で克服するのではなく、人生は苦であると諦めることで、心の平安を得られるということ
- ② 集諦：あらゆる存在は、因と縁が集まって生ずるから、実体のない我に固執せず、他者に功德を施すことで救いが得られるということ
- ③ 滅諦：滅は、もともと制するという意味であるが、欲望を無理に抑えようとせず、煩惱がおのずから滅することに任せよということ
- ④ 道諦：快樂にふけることや苦行に専念するという両極端に近づくことなく、正しい修行の道を実践することが肝要であるということ

問6 ゴータマ・ブッダが説いた人間観についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[32] (2003年追試)

- ① 人間の身体や心的要素は絶えず変化しているので、自己を永遠不滅であると錯覚したり、これに固執したりしてはならない。
- ② 人間の身体や心的要素は、すべて宇宙の真理に当たる法身仏から派生したものであるから、成仏の可能性は自己に備わっている。
- ③ 人間の身体や心的要素も含めて、この世にあるものはすべて空であり、無自性であるから、自己というものも存在しない。
- ④ 人間の身体や心的要素も含めて、この世にあるものは根源的実在である心の現れであり、自己というものも実は仮象である。

第4問 次のABを読み下の問い(問1～問4)に答えよ。(配点 16)

A ブッダの死後、紀元前3世紀の(a)アショーカ王のころ、仏教教団は(b)上座部と大衆部とに分裂した。以後両派は分派をかさね、結局約20の部派が並立することになった。これを部派仏教とよぶ。部派仏教は、出家し、きびしい戒律を守って修行し、(c)阿羅漢を理想として自分一個の悟りをもとめることを重視した。

これに対して、紀元前1世紀ごろから、一般民衆ならびにその指導者であった説教師の間で、自分の悟りをもとめるという自利とともに慈悲の利他行を重んじ、広く一切の衆生の救済を目指して献身する(d)菩薩を理想とする運動がおこった。彼らは、みずからの教えを、大衆を救う大きな乗り物ともいうべき教えであるとして、大乘仏教と名づけた。

問1 下線部(a)に関して、アショーカ王が国内に作らせたストゥーパとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[33]

①

②

③

④



問2 下線部(b)に関して、上座部と大衆部の主張の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[34]

- ① 上座部が金銭の受納を肯定し、大衆部が塩の貯蔵を肯定した。
- ② 上座部が金銭の受納を肯定し、大衆部が塩の貯蔵を否定した。
- ③ 上座部が金銭の受納を否定し、大衆部が塩の貯蔵を肯定した。
- ④ 上座部が金銭の受納を否定し、大衆部が塩の貯蔵を否定した。

問3 下線部(c)(d)に関して、下の像の中から阿羅漢像 [35] と菩薩像 [36] を、次の①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。

①

②

③

④



B 文献 1 をご覧ください。これは仏足石についての説明です。仏像が作られる以前の初期仏教では仏陀のシンボルを、仏の足跡として描き、それを崇拝していたことがわかります。そして、文献 2 は、インドの [37] 王が作らせた碑文の柱頭にもみられる、法輪についての説明です。これも仏像制作以前の仏教のシンボルです。さて、図 1 をご覧ください。この黄金のコインには仏像が刻まれています。その裏面には [38] 王の肖像が刻まれています。この王が仏教に帰依したことによって、この王朝の首都プルシャプラ周辺の [39] 地方では、ギリシア彫刻の影響を受けて仏像彫刻が製作されるようになったのです。

文献 1

仏足石とは仏陀の足の裏の形を石の上に刻んだもの。仏足跡とも書く。インド初期仏教では仏像はまだつくられず、法輪、菩提樹、塔などを拝んだが、仏足石も崇拝対象の一つ。足裏に千輻輪宝、金剛杵、双魚紋などの図がある。仏足石はインド、南アジアなどで拝まれ、日本では天平勝宝 5 (753) 年刻の奈良県の薬師寺にある仏足石 (国宝) が最も古い。
出典『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典』

文献 2

法輪とは仏教で、釈迦の説いた教え(法)を車輪にたとえて呼んだもの。後には、法(仏教)もしくは仏(釈迦)そのものの象徴としても用いられるようになった。サンスクリットの [40] チャクラの訳。[40] は法、またチャクラは車輪もしくは円盤形の武器を意味する。したがって法輪とは、仏の教えが 1 ヲ所に止まることなく、あらゆる地方のあらゆる人々にゆきわたることを、車輪のどこにでも行く自由な動きにたとえ、また人々の邪見・邪信を碎破するのを、武器としての円盤のはたらきになぞらえたものである。
出典『世界大百科事典 第 2 版』

図 1



問 4 上の文中の空欄 [37] ~ [40] に入る最も適切な語を、次の①~④のうちからそれぞれ一つ選べ。

[37] ①アショーカ ②カニシカ ③チャンドラグプタ ④ダレイオス 1 世

[38] ①アショーカ ②カニシカ ③チャンドラグプタ ④ダレイオス 1 世

[39] ①パンジャブ ②カシミール ③ガンダーラ ④カラコルム

[40] ①サンガ ②ダルマ ③ブツダ ④サティア

第5問 下の問い（問1～問7）に答えよ。（配点 20）

大乘はサンスクリット語の [41] の訳語で、「多数の人々を乗せる広大な乗り物」の意。すなわち一切衆生の済度を目ざす仏教という趣旨。仏滅後数百年（紀元前後ごろ）インドにおこった新しい仏教運動は、それまでの諸部派に分かれて各自の教理体系を固めていたあり方を鋭く批判しつつ、幅広い諸活動を展開し、やがて新しい諸経典が成立するなかで、『[42]』以来この自称が確定した。従来の上座部中心の仏教を一般民衆に開放し、在家信者を主とする進歩的な考えの仏教徒の間からこの運動はおこり、異民族に支配されて混乱していた、当時の悲惨な社会状況や、仏教遺跡のストゥーパ崇拜などとも関連が深い。その最大の特徴は、現在多方仏を認めて利他に向かう多くの菩薩をたて、また多くの大乘経典が生まれたことにある。3世紀以降インドに栄えたが、7世紀からは [43] 化が著しく、それは大乘よりも金剛乗と称した。大乘仏教は、のち中国、日本など、またチベットに伝わり、その主流となる。なお部派仏教に対する小乗の貶称は、インドには顕著でなく、大乘仏教を根拠とした中国や日本で盛んであった。

問1 上の文章中の空欄 [41] ～ [43] に入る最も適切な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[41] ①ヴァジラヤーナ ②マハーヤーナ ③マハーバイローチャナ ④ヒーナヤーナ

[42] ①維摩経 ②法華経 ③勝鬘経 ④般若経

[43] ①上座部 ②大衆 ③密教 ④学問

『般若心経』にある「およそ物質的現象というものは、すべて [44] がないことである。（色即是空）」ということばのみにとられるならば、虚無主義に陥ることもありうる。しかし、そのすぐ後に「およそ [44] がないということは、物質的現象なのである。（空即是色）」ということばが続いていることを見落としてはならないであろう。ここには、現象は空であると実感しつつも、現実をそのまま認めるという立場がある。凡夫の苦悩ある姿を観察して、菩薩は、「一切法は空なり」と知りつつも [45] のこころを發する根拠がこの短い二つの句にあるのである。これは断じて虚無主義などというものではない。空の思想がもしも虚無主義であるとするならば、自利利他行に勇猛に遇進しようとする菩薩行という大乘は、ありえないであろう。

問2 上の文章中の空欄 [44] ～ [45] に入る最も適切な語を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[44] ①般若 ②無自性 ③煩惱 ④実体

[45] ①愛着 ②慈悲 ③三昧 ④智恵

問3 古代インドの仏教では食事の作法を含め、様々な規則が定められた。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[46] (2013年追試)

- ① 在家信者は、不飲酒戒、不殺生戒、不邪淫戒などの五戒を遵守することが求められた。
- ② 五戒の受戒は、ブッダ、仏教の教え、僧侶集団の三者に帰依した出家者のみに許されていた。
- ③ 出家者は、修行に専念するため、在家信者ほど厳しい生活規則は課されなかった。
- ④ 在家信者も出家者も、無所有などの五戒を守ることによって、煩惱から離れることを目指した。

問4 次の文章は、大乘仏教における「菩薩」の行うべき実践についてブッダが説いたとされているものである。ここで述べられていることについて、大乘仏教の思想を踏まえて説明した文章として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[47] (2014年本試)

菩薩の道を志したものは、ここでつぎのような考えを起こさなければならない。……「彼ら(衆生)すべてを、私は、涅槃の世界に引き入れなければならない。しかもなお、たとえそのように無数の衆生を涅槃に導いたとしても、実はいかなる衆生も涅槃にはいったのではない」と。

それはなぜかという、もしも菩薩に衆生という観念が生ずるならば、彼を菩薩と呼ぶべきではないからである。それはまたなぜか。もし彼(菩薩)に自我という観念が生ずるなら、あるいは衆生という観念、命あるものという観念、個我という観念が生ずるなら、彼を菩薩と呼ぶべきではないからである。 (『金剛般若経』より)

- ① 菩薩はまだ仏ではないため、衆生の固定的実体をすべては把握できない。それゆえ、菩薩は、衆生を導く働きを放棄し、自分の悟りの完成を目指して努力すべきである。
- ② すべての衆生は、いかなる固定的実体ももってはいない。そのことを理解したうえで、菩薩は、導く自分にも導かれる衆生にも執着することなく、衆生を涅槃へと導くべきである。
- ③ 菩薩はまだ仏ではないため、衆生の固定的実体をすべては把握できない。それゆえ、菩薩は、まずは自分にとって身近な衆生から徐々に涅槃へと導くよう努力すべきである。
- ④ すべての衆生は、いかなる固定的実体ももってはいない。そのことを理解したうえで、菩薩は、まずは自分が悟りを開き仏となり、その後、衆生を涅槃へと導くべきである。

問題はまだまだ次のページに続きます。

問5 次のア～ウは、大乘仏教において説かれた様々な思想についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。[48] (2015年追試)

ア ヴァルダマーナによって唱えられた空の思想では、縁起の教義が徹底され、あらゆる事物は、固定的な不変の実体をもたないと説かれた。

イ アサンガやヴァスバンドゥによって確立された唯識思想では、すべての事物は、心によって生み出された表象にほかならないと説かれた。

ウ 『涅槃経』などにおいて強調された仏性思想では、六波羅蜜の修行を実践して功德を積むことで、自らが仏となる可能性を獲得すべきと説かれた。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問6 次の文章は、智慧の内容をめぐる、竜樹(ナーガールジュナ)とその批判者との対話の一部である。ここから読み取れる竜樹の考えとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[49] (2016年追試)

批判者：空であることばを用いて、ものの本体が否定されることはない。ものは、存在しない火によって焼かれない。同じように、存在しないことばによって、ものの本体を否定することはできない。

竜 樹：君はものが空であることの意味を理解していない。……空であるとは、他に縁(よ)って存在しているということである。なぜそう言えるのか。本体がないからである。実に、他に縁って生じているものは、本体をもって存在しているのではない。それ自身で存在していないからである。……車や壺(つぼ)や布などは、他に縁って生じているため本体をもたないけれども、木や草や土を運ぶといったはたらきをする。同じように、私のこのことばも、他に縁って生じているため本体をもたないけれども、ものに本体がないことを証明するはたらきをするのだ。

(『論争の超越』より)

- ① ものが存在していないことと、ものが空であることは、同一ではない。ものが存在していないとは、ものはもっぱら他に縁って生じるということであり、他に縁って生じたものにも、何かを行うはたらきはある。
- ② ものがそれ自身で存在していないことと、ものが存在していないことは、同一ではない。ものがそれ自身で存在していないとは、ものに本体があるということであり、本体があるものにも、何かを行うはたらきはある。
- ③ ものが存在していないことと、ものがもっぱら他に縁って生じることは、同一ではない。ものが存在していないとは、ものに本体がないということであり、本体がないものにも、何かを行うはたらきはある。
- ④ ものに本体がないことと、ものが存在していないことは、同一ではない。ものに本体がないとは、ものがそれ自身で存在していないということであり、それ自身で存在していないものにも、何かを行うはたらきはある。

問1 ブッダの教えを信奉する仏教教団の説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[50] (2018年追試)

- ① 在家信者になるための条件として、仏・法・僧の三宝への帰依を誓うことが必要とされる。
- ② 不殺生や不邪淫などの五戒は在家信者のためのものであり、出家修行者には適用されない。
- ③ 在家信者たちのなかには、ブッダの遺骨を納める仏塔(ストゥーパ)に集まり、供養を行う者たちがいた。
- ④ 出家修行者たちの間で、戒律の規定などをめぐり、保守的な上座部と改革派の大衆部への分裂が起きた。

これで問題は終わりです。